

練学歯だより

No.27

練馬区学校歯科医会広報

<http://www.nerigakushi.tokyo>

2022年3月発行

目 次

- p.1 ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
- p.2 保護者の皆さまへフッ化物でむし歯予防！
練馬区学校歯科医会 学術委員会
- p.4 新型コロナ禍における児童生徒の食生活、虐待等の日常生活の変化について
練馬区学校歯科医会 学術委員会
- p.8 歯と口の健康推進事業における小・中学校への歯ブラシ贈呈 西 克昌
- p.9 練馬区学校歯科医会 会員研修会
コロナ禍における児童虐待の対応について
森岡歯科医院 森岡 俊介
学術担当理事 西村 滋美
- p.11 第72回関東甲信越静学校保健大会 浅見 律
- p.12 第40回練馬区学校保健大会 名古屋 昌宏
- p.13 第85回全国学校歯科保健研究大会(東京)
山室 直子
生田 剛史
- p.15 学校紹介
立野小学校 野坂 祐介
田柄第二小学校 小杉 京子
大泉北中学校 井川 淳一
- p.18 新入会員の声 大泉学園桜中学校 山中 大輔
豊玉第二小学校 吉野 一雄

会長挨拶

練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二

日頃より会員の先生方には本会事業にご尽力くださり役員一同心から感謝申し上げます。

練馬区学校歯科医会は、令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症による感染防止対策として昨年同様「緊急事態宣言発令に伴う令和 3 年度学校歯科健康診断の対応」を会員の先生方には通知を致しました。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を中心に、本年度も先生方のご協力により、4 月より 12 月末までにおける、春の歯科健康診断から秋の会員研修会までの事業は、すべて順調に終了することができました。残念なことに「教育員会との研修協議会および小中学校校長との研修協議会、全国学校歯科保健研究大会等の事業は、新型コロナウイルス感染症により中止となりました。しかしながら 12 月の練学保大会は感染予防対策のもとに開催されました。

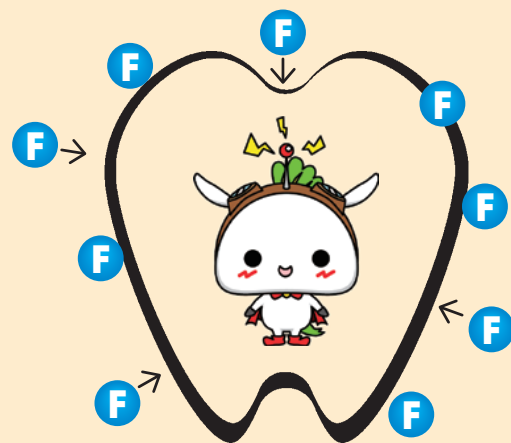
本年度も本会事業の一環として教育委員会を通じて、小学校・中学校への歯ブラシ寄贈と感染防止策から手指用のアルコール消毒薬を全校に配布いたしております。学術委員会では、「特別支援学級のアンケート調査」の論文別刷りおよび父兄児童生徒の指導用「児童生徒に伝えたいフッ化物のお話」のパンフレットを作成し、練馬区全学校関係に配布いたしました。研究課題として「コロナ禍の学校歯科健診について」のアンケート調査も進行中であります。

練馬区学校歯科医会ホームページも随時更新をしており、さらに進化しております。課題の新型コロナウイルスは、デルタ株からオミクロン株へと変貌しており、今後も予断を許さない状況であり、新生活様式に伴い、あらゆる事態が多々変化してゆきますので、会員の先生方にはさらなるご指導とご協力を切にお願い申し上げます。

保護者の皆さまへ

フッ化物で むし歯予防!

練馬区学校歯科医会



フッ化物とは

近年、低学年の児童生徒のむし歯の数は昔に比べてかなり減っていますが、学年が上がるにつれてむし歯は増えています。平成27年のデータでは高校生は2人に1人はむし歯の経験がありました。むし歯の原因となる細菌は、食べ物や飲み物の中に含まれる糖분을栄養に酸を作り出します。酸によって歯の表面のカルシウムなどのミネラル成分が溶け出し、放っておくとむし歯になってしまいます。フッ化物にはむし歯予防に欠かせない効果があります。フッ化物の作用とむし歯予防に効果的な正しい使用方法をご紹介します。

フッ化物とは、フッ素と他の元素との無機化合物のことです。

フッ素は、それ自体は気体ですが、自然界では化合物として存在し、空気、土、海水、植物、動物、食品など、あらゆるものに含まれています。これらに含まれるフッ素は元素名の「フッ素」ではなく「フッ化物」と呼ばれています。

ちなみに練馬区の水道水のフッ化物濃度は0.1ppmです（平成30年度東京都水道局データ）。

※ppmとは100万分の1の割合を示す単位：フッ素濃度1ppmは物質1kg中にフッ化物1mgが含まれていることを意味します。



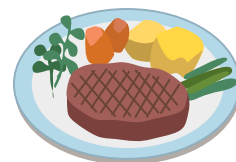
フッ化物の含有量

- ・ 海水 1.3 ppm
- ・ 海藻類 2.3 ppm～14.3 ppm
- ・ お茶の葉 100～400 ppm
- ・ 自然塩 25.9 ppm
- ・ ヒト血漿 0.08 ppm

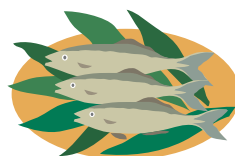
（日本歯科医師会テーマパーク8020より抜粋）



野菜類 0.1～1 ppm



肉類 0.3～2 ppm



魚介類 1～15 ppm



穀類 0.1～2 ppm



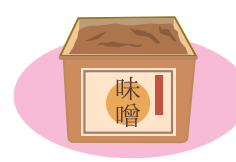
果物類 0.1～1 ppm



乳類（牛乳） 0.1～0.3 ppm



お茶 0.5～2 ppm



味噌 3～10 ppm



フッ化物の効果

① 歯を硬く、強くします

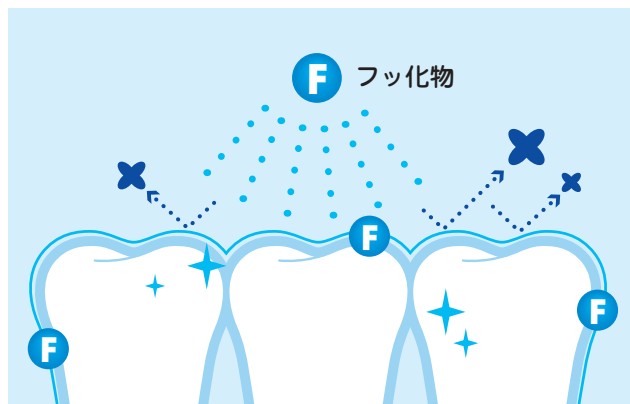
フッ化物は歯の表面のエナメル質に取り込まれ、酸に溶けにくい性質にします。

② 溶け始めたエナメル質を修復します (再石灰化を助けます)

歯から溶け出したミネラル成分を歯に戻す再石灰化を促進し、歯を修復します。

③ むし歯の原因となる酸を 細菌につくらせないようにします

むし歯の原因菌の活動をおさえ、歯が溶ける原因となる酸の産生をおさえます。



フッ化物の利用方法

① フッ化物配合歯みがき剤

むし歯予防率
20～30%

6～14歳 1 cm程度 1000 ppm
15歳以上 2 cm程度 1000～1500 ppm

就寝前の使用が効果的です。1日2～3回行い、歯みがきのあと10～15 mlの水で1回程度洗口し、その後1～2時間は飲食をしないほうが効果的です。

② フッ化物塗布

むし歯予防率
30～40%

歯科医院などでフッ化物を歯に直接塗る方法です。年に数回塗布します。1歳半ころから行うことができます。特に萌出したばかりの歯は、歯の質が未完成で弱いため、むし歯予防にとっても効果的です。

③ フッ化物洗口法

むし歯予防率 50～80%
歯面塗布法の 2～2.5倍！

“ブクブクうがい”ができるようになる4歳以上から成人、老人まで広く行われる方法です。1日1回または1週間に1回の利用方法があります。家庭や幼稚園・保育園では1日1回、小・中学校では1週間に1回がすすめられています。

*むし歯予防率50～80%とは10本むし歯になるはずだった歯の5～8本がむし歯にならずにすむということです。

フッ化物洗口のむし歯予防効果について

- ブクブクうがいができるようになる4歳ごろから15歳くらいまでの間、継続してフッ化物洗口を行うと、永久歯のむし歯予防効果が期待できます。
- フッ化物洗口は、家庭よりも保育園・幼稚園や学校などの集団の場で行うことで確実に実施でき、むし歯予防効果が高くなります。
- 大人になってからもフッ化物歯磨剤での歯みがき後にフッ化物洗口をすると、むし歯予防効果が長続きます。

フッ化物を上手に使い、生涯にわたって歯・口の健康を維持しましょう。

更に詳細な情報を知りたい方はこちらのQRコードをご参照ください。



練馬区公式アニメキャラクター ねり丸 ©練馬区
ねり丸 練馬区許諾（非販売）No.2-N-4

編集

西村 滋美	生田 剛史	瓦井 徹	石塚 亨
宮本 一世	佐藤 公男	浅見 律	山室 直子
大塩かおり	郷家 英二	古田 裕司	石井 伸行
名古屋昌宏	草柳 英二		

練馬区学校歯科医会

住所 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6-5-13 電話 03-3557-0045

新型コロナウイルス感染症禍における 児童生徒の食生活、虐待等の日常生活の変化について ～新型コロナウイルス感染症禍における学校歯科健診についてのアンケート調査より～

練馬学校歯科医会 学術委員会

【はじめに】

昨年1月から流行した新型コロナウイルス感染症の影響により、教育現場も突然の長期休校により、様々なことに対して新しい生活様式を強いられるようになった。

あらゆることに感染防止対策の徹底を要し、歯科健康診断の時期の変更や口腔衛生指導も中止せざるをえない状況となった。

未だ油断を許さない新型コロナウイルス感染症禍（以下コロナ禍と略す）の状況において、学校歯科医として児童・生徒の健康維持のためにより良い対策を構築することが重要である。

そのためには、コロナ禍における児童生徒の食生活及び虐待等の日常生活の変化についての現状を把握する必要がある。今回、コロナ禍が学校歯科健康診断にどのような影響を及ぼすかを検証するため、学校歯科医に対してアンケート調査を実施した。

【方法】

アンケートは練馬区学校歯科医会会員に対してメール配信と郵送で実施し、回収率は79.8%（114人中91人）であった。（表1）

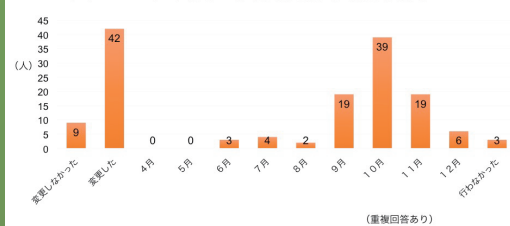
表1 担当校

幼稚園	2人
小学校	51人
中学校	28人
高等学校	7人
特別支援学校	3人
総計	91人
回答率	79.8%

【結果】

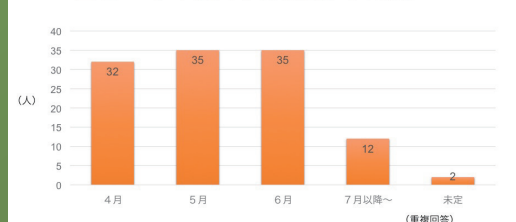
- 1) 昨年度の歯科健康診断の実施に関しては、練馬区教育委員会及び練馬区学校歯科医会から歯科健康診断は9月以降にとの指示があり、9月以降から10月が最多数となった。また歯科健康診断を行わなかった学校もあった。（図1）

図1 昨年度の歯科健診実施状況



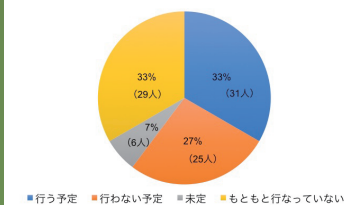
- 2) 今年度の歯科健康診断はほとんどが6月30日以内に実施されたが、実施の時期が“未定”との回答もあった。（図2）

図2 今年度の歯科健診の時期



3) 秋の歯科健康診断については、「実施する」及び「実施しない」の回答が、ほぼ同数であった。(図3)

図3 今年度の秋の歯科健診実施状況



4) 昨年度とのむし歯及び歯肉炎と口腔衛生状態についての比較については、むし歯が増えたとの回答は8人で少なかったが、歯肉炎と口腔衛生状態に関しては、約2割の先生が「増えた」と「悪くなった」と回答した。(図4、図5、図6)

図4 昨年度との比較 (むし歯)

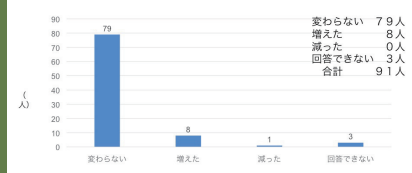


図5 昨年度との比較 (歯肉炎)

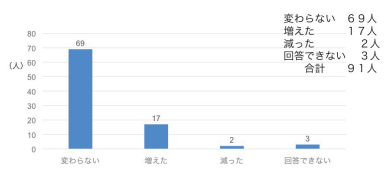
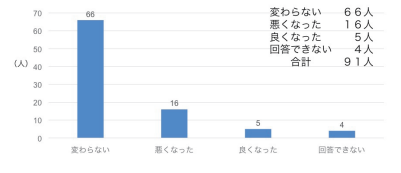
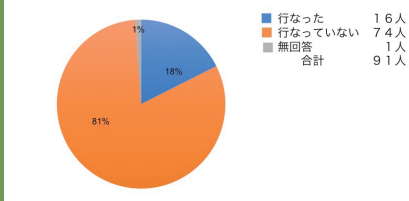


図6 昨年度との比較 (口腔衛生状態)



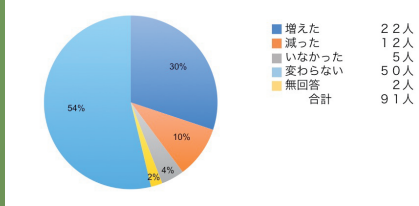
5) 昨年度の口腔衛生指導に関しては、81%が「行なっていない」との回答であった。(図7)

図7 昨年度の口腔衛生指導実施状況



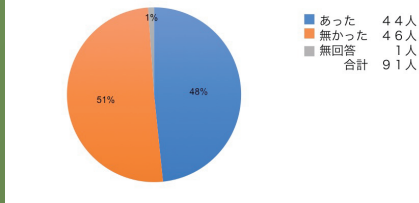
6) 学校の歯科健康診断を欠席して個々で歯科医院に健康診断を受けに来た人数は「変わらない」との回答が54%だったが、「増えた」との回答が30%あった。(図8)

図8 学校での健診を欠席して個別で歯科医院に健診を受けに来た人数



7) コロナ禍前後の歯科健康診断時のストレスの違いについては「あった」と「無かった」がほぼ同じ割合だった。(図9)

図9 コロナ禍前後の健診時のストレスの違い



8) コロナ禍前後の歯科健康診断時のストレスについては、以下のような記述があった。
(一部抜粋)

- ・非接触での健康診断、感染症に対し全員が敏感になり、細心の注意が必要とされた
- ・例年より時間が長くなってしまった
- ・感染防止対策の徹底と、緊張感に精神的疲労を感じた
- ・感染予防対策の手袋とフェイスシールドの装着が煩わしい
- ・フェイスシールドで視界が不明瞭で健診時間がかかった
- ・感染防止対策で手間が増え、時間が削られ、暑さもストレスだった
- ・清潔域不潔域の正確さを求められていることに対する精神的疲労
- ・感染のリスクが常に頭にあった
- ・クラスターを絶対に出さないよう注意した
- ・健康診断時に暴れてしまう児童生徒がなるべく飛沫を飛ばさないよう、また飛沫を浴びないようにするために気を使った
- ・健康診断時にコロナ感染者がいたと後日報告を受けた
- ・健康診断中に生徒が急に咳き込みフェイスシールド越しに飛沫を浴びた
- ・障害児を診る際には密になるので、その点を注意し思うように健康診断ができなかった
- ・本人に簡単なアドバイスができなかった
- ・大規模校と多人数の感染対策

9) 例年と比較にして苦労した点については、「感染予防及び感染対策にとっても気を使った」と言う記述が多かった。その他、以下のような記述があった。(一部抜粋)

- ・グローブの装着や交換と消毒に時間がかかり、健康診断の時間もいつもより長くなってしまった
- ・フェイスシールドの装着により、「口腔内の視認性が低下する」、「視界が不明瞭になる」、「曇る」、「声が通りにくく記述者へ診査の伝達が大きな声を出さなければならない」
- ・換気に苦慮した
- ・本人確認のため、児童生徒には普段は大きな声で名前を記録者に伝えてもらっていたが、発言を避けるため名札を作成し、記録者に提示させた

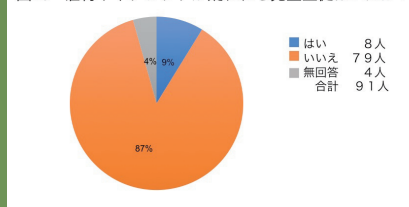
10) 健康診断時に工夫したことについては以下のような記述があった。

- ・ダブルミラーで健康診断を行なった。
- ・ダブルミラー用のミラーの数が確保できず木製の舌圧子を使用した
- ・フェイスシールドの装着
- ・グローブを2重にした
- ・ヘッドライトと拡大鏡を使用した
- ・学校が用意してくれた着脱しやすいビニール製の手袋を使用した
- ・待機児童にソーシャルディスタンスをとってもらった
- ・挨拶と礼を控えてもらった

- ・本人確認用に大きな名札を作成して、発言を控えてもらった
- ・待機時の私語禁止、保健室への入室人数の制限をした
- ・扇風機を数台使用して換気を行なった
- ・健康診断の日数を増やした
- ・待ち時間が長くないよう素早く健康診断をした

1 1) 虐待やネグレクトが疑われる児童がいたとの回答も 9% あった。(図 10) 疑われた理由としては以下のような記載があった。

図10 虐待やネグレクトが疑われる児童生徒はいたか？



- ・う蝕でしかも C3 が多い
- ・多数の未処置歯があり、養護教諭から若干家庭に問題ありとの説明
- ・ネグレクトと言えるかどうかわからないが、多数歯齲蝕で挙動不審な子がいたような気がする
- ・う蝕歯が多数あり侵襲の度合が進んでいる歯も見受けられ、歯肉状態もかなり不良で問いただしても親の関心度が感じられず本人の関心度もほとんど無いので
- ・カリエスが多く歯肉炎がかなりある
- ・ほとんどの歯がむし歯で親が無関心で放置されているのではないかと感じた
- ・著しく清掃状態が悪い、カリエス放置
- ・C2 以上のカリエス複数歯あり、かつ口腔衛生状況が不良

【考察】

新型コロナウイルスの感染症の影響により、社会が未曾有の状況となり、児童生徒の生活環境にも著しい変化が認められた。学校の長期休校により、日常の生活リズムが乱れがちとなり、さらに常にマスクを着用しなければならないような生活を強いられることにより、口呼吸が増え、口腔衛生状態が悪化し、歯肉炎の増加傾向の可能性が示唆されている¹⁾。今回のアンケート調査から、歯科医師自身のコロナ禍における歯科健康診断時の感染対策によるストレスを約半数の先生方が感じており、大変苦勞している様子が伺えた。飛沫感染の観点から、口腔衛生指導の対面での実施や健康診断時の児童生徒との会話を制限せざるを得ないため、情報収集が乏しくなってしまう可能性が示唆された。

また、コロナ禍により、社会状況が厳しくなっていることから保護者の生活環境も悪化し、子どもに対する虐待やネグレクトが増えていると言われている²⁾。

今後は、学校側の状況も情報収集し、学校との連携を強化して虐待やネグレクトの早期発見に努め、“児童生徒のより良い健康維持のために必要な対策を構築する”ための調査・研究をさらに進めて行く必要性が示唆された。

【参考文献】

- 1) 朝田芳信. コロナ禍における学校保健・歯科健康診断の意義と今後の対応. 日本学校歯科医会会誌. 2021; 129: 46-51.
- 2) 岡崎好秀. 口呼吸とウイルス感染症. 学校保健の動向令和2年度版. 15.

歯と口の健康推進事業における小・中学校への歯ブラシ贈呈

総務理事 西 克昌

平成30年から「歯と口の健康推進事業」の一環として小・中学校に歯ブラシの贈呈がされています。練馬区の全ての小・中学校に贈呈する予定です。

昨年はコロナの影響で歯ブラシ希望校は1校でしたが今年は例年並みに7校ありました。

令和元年度

合計 3,770本

学校名	贈呈数	学校名	贈呈数
石神井西小	4 5 0 本	豊玉小	5 3 0 本
石神井小	6 0 0 本	開進第1中	4 8 0 本
大泉第1小	2 8 0 本	旭丘中	1 7 0 本
光が丘第8小	2 6 0 本	豊玉中	2 8 0 本
大泉東小	7 2 0 本		

令和2年度

合計 1,060本

学校名	贈呈数	学校名	贈呈数
関町北小	6 0 0 本	中村西小	4 6 0 本

令和3年度

合計 3,600本

学校名	贈呈数	学校名	贈呈数
下石神井小	8 8 0 本	南田中小	3 9 5 本
光が丘夏の雲小	5 6 0 本	北町西小	4 3 0 本
光が丘秋の香小	4 7 5 本	光が丘第三中	4 5 0 本
大泉桜学園小	4 1 0 本		

ci502



対象：小学校低学年

ci32



対象：小学校高学年

ciミニ歯ブラシ「ミディ」



対象：中学生

練馬区学校歯科医会会員研修会

演題：子供の虐待の現状とその対応に必要な学校歯科医の役割

森岡 歯科医院・東京歯科大学臨床教授 森岡 俊介
東京都立有徳高校定時制学校歯科医
子ども虐待防止歯科研究会副会長
板橋区要保護児童対策地域協議会代表者委員

抄録

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態措置や自粛生活が続いた2020年から、学校においても、オンライン等による在宅学習や2部授業、感染リスク低減のための取り組みなど様々な工夫がされてきたところです。

このように、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わった中で、厚生労働省が2021年8月に公表した「全国の児童相談所が対応した児童虐待相談件数」(速報値)によれば、前年度より1万2349件(5.8%)多い20万5029件で過去最多となり、集計を始めた1990年度以降、実に30年連続で最多を更新し続けています。

今回、相談件数が6%近い増加を見せたことについて、専門家の間では新型コロナ感染症の広がりによる生活環境の変化との関連性が指摘されているところですが、この件について厚労省は、「明確な因果関係は分からないが、引き続き注視していく」としています。

少子高齢社会となっている我が国で将来を担う子どもの心身の健やかな育成の妨げとなる子ども虐待に対する取り組みは、高齢者施策同様に重要な事ではないでしょうか。このような観点も含め、平成28年度には児童福祉法や児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)が、児童福祉の理念、児童虐待の、発生予防、虐待発生時の対応、被虐待児の自立支援の観点から改正され、29年4月より施行されました。

文部科学省においても児童虐待の防止等の学校の的確な対応について「健康状態の日常的な観察や健康診断における幼児児童生徒の心身の状況把握や児童虐待の早期発見に務めること」とし、特に、「健康診断(身体測定、内科検診、歯科検診)は児童虐待を早期に発見しやすい機会であることに留意」としています。

今日では子どもの、う蝕罹患率等は歯科関係者の努力もあって大きく減ってきており、要保護児童の場合も同様な傾向を示してう蝕罹患率や一人平均う蝕数は減少してきてはいますが、平均よりは高い数値を示しています。特に、未処置率については、私どもの調査や、三重県の調査で要保護児童では、高い数値を示しており、相変わらず治療されておらず、対照児童とは有意差があります。学校歯科検診の場で、う蝕有病者に対する治療勧告書の提供はされておりますが、これにとどまらず、今後は事後の状態を確認・把握することがより重要と考えられます。

子どもの日常の生活習慣が反映される口腔内状況を把握・確認できる学校歯科医の役割は、治療を受けられない要保護児童の早期発見に大きな役割があるものと思われます。

今回の講演が少しでも子どもの心身の健やかな成長及び発達の一助となれば幸いです。

練馬区学校歯科医会会員研修会

演題：子供の虐待の現状とその対応に必要な学校歯科医の役割

学術担当理事 西村 滋美

令和3年度会員研修会は、11月18日(木)午後7時よりZOOM配信および歯科医師会館にて開催されました。演題は“子供の虐待の現状とその対応に必要な学校歯科医の役割”で、板橋区で歯科医院を開業されていて、東京歯科大学臨床教授でもあられる森岡俊介先生にご講演をいただきました。先生は子ども虐待防止歯科研究会副会長や板橋区要保護児童対策地域協議会代表者委員も務められていて、委員会で協議された様々な事例や講演のまさに当日に起こった事例などについてもご紹介いただきました。

日本の現状では出生数が減少しているにも関わらず、子どもの虐待が年々増加していて、昨年度は全国の児童相談所の児童虐待相談対応が過去最多となったそうです。虐待による死亡事例も毎年50人前後で推移していて、特に0歳児の死亡事例が多いとのことでした。経済的貧困、ひとり親、ステップファミリー、DV、育児能力の不足等が子ども虐待の大きなリスクとなっているようです。

コロナ禍において、大人だけでなく子供を取り巻く環境も大きく複雑に変化し、親たち自身が苛立っている事もあり、虐待も多様になっているようです。虐待を受けている子ども達(被虐児)に安全で安定した場所を与えることが学校の重要な役割で、被虐児にとって逃げ場でもあり楽しみの場にもなっている場合があります。学校で行われる健康診断は、身体的虐待やネグレクトを早期に発見しやすい機会となります。また、発見した場合、私たち学校歯科医は公的機関に通報できる立場にあります。最近では被虐児のう蝕罹患率も減少しているそうですので、なかなかわかりにくいこともありますが、歯科健診時にう蝕の多い子、う蝕は少なくとも未処置歯のある子、口腔内に外傷(歯の破折、外傷による変色、骨折)のある子、腕や頬に咬傷の痕がある子(親が咬むこともあるそうです)、また、学校歯科健診後に治療勧告書の事後処置としての文書提出がない子など、何らかの「不自然さ」を感じた場合は児童・生徒の安全を第一と考え、速やかに学校に情報、意見を伝えることが望ましいとのことでした。

昨今痛ましい事件が連続して起こりましたし、日々新たな事件も報道されています。私自身も以前、治療した後しばらくして警察から連絡があり虐待だったとわかった経験がありましたので今回の講演はとても身につまされました。最後に先生が提示された「虐待と間違えて保護した場合は謝ることができるが、間違えて保護せず冷たくなった子には謝ることすらできない」というお言葉がとても深く心に響き、学校歯科医の関わりの重要さをさらに大切に感じました。

第72回関東甲信越静学校保健大会に参加して

開進第一小学校担当歯科医 浅見 律

第72回関東甲信越静学校保健大会が令和3年8月5日(木)茨城県水戸市で開催されました。

今年度はコロナ禍ということでリモート開催になりましたので、リモートにて参加したことをご報告いたします。

コロナ禍も2年目になりますと、リモート配信の段取りも素晴らしく大変スムーズに運営されていたようでした。

特別講演では、清水建講師による「空気を読むを科学するー微表情から察する子供の感情と空気ー」という題目で、微表情から察する子供の感情と空気がサブタイトルになっていて非常に興味深い内容の公演でした。

不登校になってしまった子供を例題にして、その子の表情と言動としぐさからどうやったら感情を読み取れるか、どのように対応するかを「暗黙知の見える化」という表情観察の手法によって見える化して対応するというお話しでした。

一見簡単そうに思えるのですがかなりの実践経験とセンスが必要と思われますが、学校の先生だけでなく我々歯科医にも必要なスキルであると認識させられました。

その他、班別研究協議会が5班に分かれて精力的に公演をされておりましたが、項目だけ記載させていただきます。

【第1班】

教育目標具現化を目指す学校保健のあり方

家庭及び地域社会との連携による学校保健委員会のあり方

【第2班】

豊かな心をもち健康な生活を実践する児童生徒の育成を目指した健康教育の進め方

保健委員会から発信する未成年者飲酒防止教育の取組

【第3班】

心と体を育む性に関する指導をめざして

がんをテーマにした探究的な学習

【第4班】

歯・口の健康づくりの日常化を目指す学校歯科保健活動の在り方

家庭及び地域社会との連携による歯科保健活動

【第5班】

安全で快適な学習環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方

家庭や地域社会と連携し、児童・生徒が自らの安全を確保する能力や態度を育てる安全教育の進め方

第40回練馬区学校保健大会に参加して

豊玉第二中学校担当歯科医 名古谷 昌宏

第40回練馬区学校保健大会が前年に続きコロナ禍ということで感染対策を厳にして令和3年12月16日に練馬文化センター小ホールにて開催されました。

草柳英二練学歯会長(大会副会長)の開会の辞に続き来賓の祝辞紹介がありました。次に学校保健関係の表彰受賞者が紹介され練学歯からは4名の先生方が受賞されました。

東京都教育委員会表彰は、小池修先生(旭町小学校)、谷内文夫先生(三原台中学校)。練馬区民表彰は、高梨登先生(光が丘四季の香小学校)、栗田正明先生(南が丘中学校)の先生方です。

次に研究発表に移り練馬区学校薬剤師部会による「学校で必要な感染予防」の演題で発表がありました。演者は練馬区学校薬剤師会会長小田和枝さんで内容は主にコロナに対する感染予防対策の必要性でした。すぐに手洗いの出来ない時のアルコール消毒、換気的重要性について話されました。

マスク着用については学校教育活動においては十分な身体的距離が確保できる場合、熱中症などの健康被害が発生するおそれのある場合以外はマスクの着用は必要ないとのことでした。

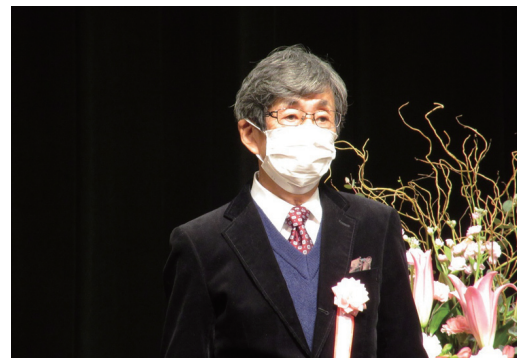
特別講演は国立感染症研究所感染症疫学センター第11室長新井智氏による「学校における新型コロナウイルス対策について」の講演でした。新型コロナウイルスが最初の発症から現在に至るまでの経過感染メカニズム、症状。世界、日本における患者発生状況、ワクチンの種類各国の接種状況、感染予防対策等お話しされました。

中国武漢で最初のコロナ感染症患者在報告されてから約2年の間に急速に病原体・治療法・予防法等の知見が蓄積されてきており日常生活でそうした知見を活かして正しく備えることが大切だとのことでした。

最後に長谷川望大会副会長の閉会の辞により大会を終了しました。



草柳先生挨拶



谷内先生表彰



第85回全国学校歯科保健研究大会(東京)

東京都学校歯科医会専務理事 山室 直子

初めてのWEB開催、異例の東京主催、東京都学校歯科医会による全会員の参加費全額負担、IDとパスワードが記載された招待状… 今大会は新しい形式の大会でした。

令和3年10月21日(木)に開催されLIVE配信された大会でしたが、オンデマンド配信された領域別研究協議会は9月の連休の2日間、スタジオでビデオ撮りされたものです。この協議会で、校長から感染拡大している東京への出張許可が下りなかった、ある養護教諭が東京のスタジオからではなく、自宅からWEB参加されました。学校には養護教諭の代替者がいないので、万が一の時に困るとの理由だそうです。WEBですからインターネット環境があればどこからでも参加可能ではあります。上京するのは東京在住の私たちが想像する以上にリスクと覚えるものなのかもしれません。当日の表彰式の際にも遠方から学校長、養護教諭にご参加いただきましたが(因みに東京都で表彰されたのは一校だけでした)、これも感染状況によっては叶わなかったということになります。WEB開催といえどもこのような感染症下では状況も刻一刻と変化しますから、あらゆる状況を想定しての準備が必要です。

開会式の時点で全国から約2000名の、そのうち東京都から1200名ほどの先生方がアクセスされたと聞いております。東京都学校歯科医会の会員数が2000名ほどですから約6割近くもの先生方にご参加いただいたことになります。過去のリアル開催された大会では全国からおおむね700名ほどが参加されていたとこのことから、やはりWEB開催は多くの方の参加を可能にしてくれます。リアル開催の場合はスケジュール調整が必要ですが、WEBですと自分の都合に合わせて参加できるのが最大のメリットです(今回は無料だったのが最大のメリット?)。一方、リアルは地方に行く楽しみもあります。そして生の声を聞き新しい出会いあるいは懐かしい人との再会もあるでしょう。

コロナがきっかけとなり今回はこのような形式で開催されましたが、果たして今後はこれが平常となるのでしょうか?ドラえものの『どこでもドア』みたいなものがあるといいですね。そう遠くない将来、現実になるかもしれません…

第85回全国学校歯科保健研究大会(東京)にWeb参加にて

学術委員会委員長 生田 剛史

2021年10月21日、全国学校歯科保健研究大会が東京そしてWebにて開催されました。

まず大会会場の様子をお伝えしようと思いましたが、参加(?)となっているとおり、Web視聴。今後コロナ禍が落ち着くまで、練馬区歯科医師会、学校歯科医会での講演会はWeb開催&オンデマンド配信が主流となることでしょう。

私は小学校の学校歯科医をしていますので小学校部会を中心に視聴させていただきました。アドバイザー講演は練馬区学校歯科医会で講演もして頂いた鶴見大学小児歯科学講座教授、朝田芳信先生です。講演内容は主に小学校内でのコロナ感染予防の実践、口腔の健康が感染予防につながることを意識した歯や口の健康づくりの実践を強調されていました。その後の養護教諭の研究発表でも各小学校での感染予防への取り組み、歯科保健活動について話されていました。

小学校での「歯みがき」が感染拡大の要因とイメージされるのか?それとも感染予防と認識されるのか?保護者を含めた歯科保健活動への理解がとても大事であると感じました。



昨年度大会が中止となり、お披露目の機会がなかった図画・ポスターを散りばめた大会要項



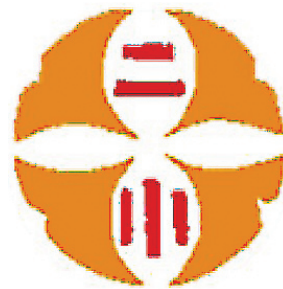
PCやモニターが並ぶ会場内



学校紹介

練馬区立田柄第二小学校

学校歯科医 小杉 京子



校章



田柄二小の『田』

二小

イチョウの葉4枚

昭和45年(1970年)4月6日、田柄小、練馬小、練馬東小を母体として、児童数1023名、25学級でスタートしました。

校歌



開校当時の田柄二小は整地が済んでおらず、「田柄田んぼ」、「田柄砂漠」のような状態で、現在のように整えられた状態ではありませんでした。ここから出発した田柄二小は、時代とともに少しずつ姿を変えていきました。

開校20周年の平成2年(1990年)には、再び地域の農家の方々から校地提供のご協力いただき、校庭が拡張されるとともに、体育館・プール・開放図書館が新設されました。

開校3年目の昭和48年(1973年)から卒業餅つきが始まりました。当時の地域の方々のはたらきかけで始まり、PTA役員の方が大根を提供してくださいました。田柄という地名の由来や千本付きという昔の人の知恵についても学び、現在も受け継がれています。

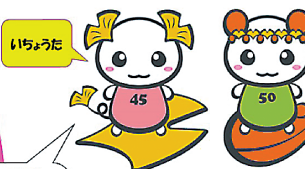
平成13年(2001年)3月、田柄二小の子供たちの夢を叶えたいと、地域の方々が出資してくださりホタル池が完成しました。同年5月に長野県の自生のホタルが放流され、平成17年(2005年)からはホタル観賞会が開かれ、夏の風物詩となっています。

現在の児童数は、554名、17クラスです。

昨年の令和2年(2020年)11月28日に、開校50周年記念式典が行われました。6年生が児童の代表として参加し、素晴らしい呼びかけと演奏を披露しました。11月20日の児童集会では、1～6年生の児童と教職員でみなさんの将来への夢や希望、願いを込めて色とりどりの風船を大空に向かって飛ばしました。また、11月29日と30日には、開校50周年記念展覧会が開催されました。

田二小のマスコット

祝・開校50周年!!



ぼくの名前は「いちろう」だ。開校45周年キャラクターとして誕生した。いちろうの胸に描かれている妖精だよ。

わたしの名前は「ぎんな」だ。開校50周年キャラクターとして誕生した。ぎんなんの妖精だよ。



学校紹介

練馬区立立野小学校

学校歯科医 野坂 裕介



練馬区立立野小学校は昭和 37 年 4 月 1 日に開校しました。
開校当初は、鉄筋 3 階建ての 8 教室で、児童数は 323 名でした。
校庭は草むらに覆われ、畑の中にポツンと一棟だけマッチ箱のような校舎が建っていたそうです。

昭和 47 年に、創立 10 周年を記念して校歌と校章が出来ました。
校歌には、校庭の桜や柳、そして遠くに見える富士山の姿に感銘し立野の子供達が立野の恵まれた自然に親しみ、将来は宇宙に羽ばたく子に育って欲しいという願いが込められています。

現在、児童生徒数は 1 年から 6 年まで男子 273 名、女子 240 名、合計 513 名の 16 学級の児童、生徒が在籍しております。学校保健委員会には、学校医・学校薬剤師・栄養士・PTA 役員も出席しており、給食も校内にて調理しております。

現在の幅健司校長先生は、『喜び』と『信頼』と『誇り』ある学校を目指していらっしゃいます。

教育目標

広く国際社会に生きる自覚をもち、主体的で創意に富んだ心豊かな児童の育成を目指す。

- あたたかい心を持つ(生命の尊さが分かり、思いやりと規範意識のある児童)
- すすんで学ぶ(個性と想像力豊かな児童)
- つよい体をつくる(健やかな心身の育成と体力向上を目指す児童)

上記の教育目標の実現を目指すために、『目指す学校像』として

- 児童が、学ぶ楽しさと成長する喜びを味わえる学校
- 保護者・地域から信頼される学校
- 教職員が、誇りとやりがいを感じる学校



学校紹介

練馬区立大泉北中学校

学校歯科医 井川 淳一



練馬区立大泉北中学校は昭和 53 年に開校した半世紀近くという比較的新しい歴史を持つ学校です。教育目標に「自ら学ぶ人間」「思いやりのある人間」「明るく健康な人間」を挙げ、現在約 400 名の生徒さんたちが通学をしております。校舎の建つ大泉町は以前、北大泉という町名でした。そこから現在の学校名が付いたということです。学校設立計画当初は「大泉学園第二中学校」という名前で事業が進んでいたそうです。地元では現在「大北中」と呼ばれておりますが、これにより、地域の歴史が意識され、より誇りを持ちかつ身近に感じられる愛着のある名前となったと感じております。

校章の選定にあたっては、生徒や父母の方からなんと 200 点という多数の応募があったそうです。ほとんどの生徒やその関係者から応募があったのではないかと想像しました。開学当時の熱気を想います。そして、その中から練馬区の花“つつじ”に北中をあしらったものが選ばれました。

つつじの花が大泉の“大”の字も表しています。生徒が将来に向かって大きく発展してもらいたいという願いがこめられているそうです。

大北中に来られたことのある方ならお判りのことと思いますが、正門から入ると校舎の高さが低いことに気づくことでしょう。私が度々うかがう保健室は 1 階にありますが、玄関に入ると階段を下っていくことになります。ところが保健室の窓からは眼下に校庭が広がっていることに気づきます。天気の良い日にはまぶしい日差しの中、元気に活動する生徒たちの姿が良く見えます。そうなのです。校舎は傾斜地を上手に利用し、また、校舎は南側に面しているため、学校全体に立体感を感じられるダイナミックなつくりとなっているのです。おかげで各教室ともとても日当たりの良い常に明るい空間となっております。

ところで、大北中には、知る人ぞ知る秘密があります。

某中学地理の教科書中にある「身近な地域の調査」の単元で、写真にある地図上に「中学校」と書かれているところがあります。高速道路のインターチェンジとその先にある終点を見つけられた地元の先生方ならピンときますよね。そうです、この「中学校」が大北中です。「自分の周りの地域を調べましょう」という学習項目に挙げられたモデル校だったというわけです。さて、新学年を迎え新しい教科書を最初に手にしたとき、この点について毎年何人の生徒さんたちが気づくでしょう。

新入会員の声

学校歯科医に就任して

練馬区立大泉学園桜中学校学校歯科医 山中 大輔

本年度より学校歯科医師会に入会させて頂きました、山中
歯科の山中大輔です。日本大学歯学部を卒業後、大学院に進
学すると同時に補綴学Ⅱ講座(局部床義歯科)に在籍しており
ました。大学院修了後1年間大学病院に勤務し、平成25年
に父である山中宏三から医院を継承し現在に至ります。



練馬区歯科医師会では現在、公衆衛生委員会に所属しています。

山中歯科に来院する方は成人～高齢者が比較的多く、小児や未成年の患者の治
療頻度は少ないのですが、1歳半および3歳児健診や保育園医をしていた経験より、
小児のう蝕罹患率の減少傾向は肌で感じておりました。しかし、保育園を卒園した子
供たちが、その後学童期～青年期と成長した時、口腔内にどのような変化が起きる
かという事を知る手段はなく、これからの時代のライフステージごとの口腔内の変化
に関して、以前より非常に興味がありました。

今年度より私が学校医として担当させて頂くのは、練馬区立大泉学園桜中学校に
なります。練馬区立の小中一貫校として義務教育に連続性・系統性と持たせた特色
のある中学校であり、歯科健診についても小学校から記録されておりますので、心身
の成長と共に口腔内の変化もわかりやすいと感じております。

そのような点からも、学校医として保健教育・保健管理に携わると同時に、歯科医師
として非常に貴重な経験をさせて頂く事ができると思っており、今後の歯科健診を楽
しみにしている次第です。

私自身、歯科医師としても学校医としても未熟ではありますが、今後ともご指導
ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新入会員の声

学校歯科医就任にあたり

練馬区立豊玉第2小学校学校歯科医 吉野 一雄

令和2年度より古田裕司先生の後任として、練馬区立豊玉第2小学校を担当することになりました吉野一雄と申します。

初めて学校を訪問した際に感じられたことですが、その校舎は歴史を感じさせるものの、整理整頓が行きとどき隅々まできれいに掃除がされており、目にした生徒たちは元気で活発ですが礼儀正しいという印象を受けました。そこからは、先生方の教育に対する理念のようなものが漠然と感じられました。豊玉第2小学校の学校歯科医就任を受けてから現在まで、何回か学校に足を運ばせていただき、校長の永井美奈子先生や養護の斎藤裕子先生とお話をする機会を持たせていただきました。そしてその姿勢からは、教育のみならず児童の健康管理にも非常に熱心に取り組んでいる様子がうかがえられました。これも前任の古田先生のご尽力あってのことと思います。



小学校入学から中学にかけての時期は、乳歯列から永久歯列への過渡期であるとともに顎顔面の成長期でもあり、口腔内の状況が大きく変化する時期であります。齲蝕の予防はもちろんのこと、不正咬合についても、安定した永久歯の咬合を導き、児童の健全な成長発育ために前向きに協力していきたいと考えております。

昭和から平成を経て近年では、子供の齲蝕は少なくなってきましたが、これも学校歯科医の先生方の長きにわたるご尽力の成果であり、私も学校歯科医の一員として、微力ではありますが、その責務を果たしていきたいと考えております。

会員の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

【執行部】



後列左より浅見理事、西村理事、佐藤理事、樋口理事、西理事
前列左より渡辺監事、中田監事、金澤副会長、草柳会長、名古屋副会長、石井専務

【学術委員会】



(左より) 郷家特別顧問、瓦井委員、西村学術担当理事
生田委員長、佐藤副委員長、石塚委員、宮本委員

【ホームページ委員会】



浅見委員長、大塩委員、山室副委員長

2022 年度学校歯科医会大会 予定

日 付	場 所	大会 名
8 月4日(木)	横浜市	第73回関東甲信越静学校保健大会
10月20日(木)	山梨県	第86回全国学校歯科保健研究大会
11月10日(木)	盛岡市	令和4年度全国学校保健・安全研究大会
11日(金)	〃	〃
11月10日(木)	岩手県	第72回全国学校歯科医協議会
12月15日(木)	練馬区	第41回練馬区学校保健大会
2023年 2 月16日(木)	神田神保町 TKPカンファレンスセンター	第57回東京都学校歯科保健研究大会

練馬区学校歯科医会の先生方の参加をよろしくお願ひします。

コロナ禍がまだまだ続き、オミクロン株も猛威を奮っていますが、幸いにも練学歯会員 115 医院からの感染、クラスターの報告はいまだみられません。諸先生方の毎日の努力の賜物だと思います。

去年は、区関連の行事が中止、各種の全国大会がリモート開催になりましたが、会員の先生が積極的にリモート大会に参加していただき記事にすることができありがとうございました。

来年も No.28 を発行予定ですので、練学歯会員の先生のご協力をよろしくお願いいたします。

12/28 に 3 回目のワクチン接種をファイザーでスタッフ 5 人全員受けました。副反応は私を含め 3 人にはほとんどなかったのですが、2 人はいずれも 30 代女性で 39℃ 以上の発熱、倦怠感、頭痛、腋窩リンパ節の腫脹が見られ大変な思いをしたそうです。

副反応の出現には個人差がありますが、感染率の低下、重症化の予防になるようですから接種をお勧めします。

佐藤 和典

今年も新型コロナウイルス感染症に悩まされて一年間が終わりそうです。しかし私たちは、感染予防を行使しながらウイルスとの戦いを克服し、多くの学校保健活動を遂行しております。児童生徒は新生活様式で耐えながら頑張っております。人類とウイルスの戦いは、今後も幾度となく続くことですが、我々人類は負けません、ウイルスには！

草柳 英二

練馬区学校歯科医会ホームページ
<http://www.nerigakushi.tokyo>

発行日 令和4年3月12日
 発行 練馬区学校歯科医会
 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6丁目5-13
 TEL 3557-0045(代)
 FAX 3557-3553

発行人 草柳 英二
 担当理事 佐藤 和典

印刷所 有限会社 かどや印刷
 〒177-0042 東京都練馬区下石神井5-1-37
 TEL 3997-0370
 FAX 3995-0594

SUNSTAR

医療機関向

こだわりの深化

臼歯部の
みがきやすさ、
さらに実感！

新発売

バトラーハブラシ #025 NEO(M)(ふつう)
#025 NEO(S)(やわらかめ)

- Point 1** 狭く磨きにくい部位へもスムーズに届く薄さ2.5mm※1の超薄型ヘッド
- Point 2** 奥歯にもスムーズに到達する84mmのスリムロングネック
- Point 3** 菌の繁殖を防止する抗菌コート毛※2採用
- Point 4** 従来よりも長く、握りやすい六角形なのでペングリップでも
パームグリップでも持ちやすいハンドル設計

超極薄ヘッド

工
業界
最薄 2.5mm※1

#025 NEO(M)(ふつう) ●毛の長さ/9mm ●毛の太さ/0.19mm
●患者様希望価格/1本300円(税抜価格)

#025 NEO(S)(やわらかめ) ●毛の長さ/9mm ●毛の太さ/0.15mm
●患者様希望価格/1本300円(税抜価格)



商品についてのご質問・ご不明な点は
下記へお問い合わせください。

サンスター株式会社

〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3番1号
TEL/072-682-4733 FAX/072-684-5669

BUTLER

※1 歯科医院で販売するハブラシ内で最薄(2019年6月サンスター調べ)
※2 抗菌部位:毛 抗菌剤:クロルヘキシジン

®登録商標 BUTLERは登録商標です。

歯科医院専売

DOLPHIN 歯ブラシ



コンパクトヘッドタイプ
プラーク除去にすぐれたテーパード加工



ドルフィン歯ブラシ
歯ブラシ

規格: ミディアム(M)・ソフト(S)

カラー: (M) ブルー・グリーン・イエロー・ピンク

(S) パステルブルー・パステルグリーン

パステルイエロー・パステルピンク

包装: 100本入(ASS)・25本入(単色)

極細毛とラウンド毛の二段植毛で、歯肉の
奥まで優しくケアできます



ドルフィン歯ブラシ DUO
歯ブラシ

カラー: ブルー・グリーン・イエロー・ピンク

包装: 12本入(ASS・単色)

総合歯科医療商社

株式会社 **コサカ**

東京都練馬区豊玉中2-18-14

TEL:03-3557-4111 FAX:03-3557-4116

https://www.kosaka.co.jp E-mail:dental@kosaka.co.jp